

## 最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

### 令和4年度8月号

#### ○ 概要

- (1) 令和4年度8月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,503億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+4.3%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,322円（伸び率▲3.5%）であった。調剤医療費の内訳は、技術料が1,778億円（伸び率+8.8%）薬剤料が4,712億円（伸び率+2.7%）、薬剤料のうち、後発医薬品が919億円（伸び率+0.5%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,374円（伸び率▲5.6%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.75種類（伸び率▲0.3%）、28.0日（伸び率▲0.5%）、70円（伸び率▲4.8%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,748億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+75億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の691億円（伸び幅+25億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+64億円（総額494億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,748億円 (+75億円)	39 その他の代謝性 医薬品(691億円)	21 循環器官用薬 (603億円)	11 中枢神経系用薬 (559億円)
0歳以上 5歳未満	14.9億円 (▲2.8億円)	44 アレルギー用薬 (5.0億円)	22 呼吸器官用薬 (2.7億円)	61 抗生物質製剤 (1.7億円)
5歳以上 15歳未満	77.2億円 (+5.2億円)	11 中枢神経系用薬 (25.9億円)	44 アレルギー用薬 (25.7億円)	39 その他の代謝性 医薬品(7.1億円)
15歳以上 65歳未満	1,358億円 (+52億円)	11 中枢神経系用薬 (276億円)	39 その他の代謝性 医薬品(258億円)	21 循環器官用薬 (182億円)
65歳以上 75歳未満	870億円 (▲19億円)	39 その他の代謝性 医薬品(192億円)	21 循環器官用薬 (158億円)	42 腫瘍用薬 (154億円)
75歳以上	1,428億円 (+39億円)	21 循環器官用薬 (260億円)	39 その他の代謝性 医薬品(233億円)	42 腫瘍用薬 (181億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,322円（伸び率▲3.5%）で、最も高かったのは北海道（11,097円（伸び率▲1.9%））、最も低かったのは佐賀県（7,834円（伸び率▲3.3%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは青森県（伸び率+0.6%）、最も低かったのは熊本県（伸び率▲7.2%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注）</sup>	82.9 %	+1.2 %
薬剤料ベース	19.5 %	▲0.4 %
後発品調剤率	79.4 %	+1.3 %
（参考）数量ベース（旧指標）	58.8 %	▲0.4 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+0.5 %	+14.5 % (20歳以上 25歳未満)	▲11.2 % (0歳以上 5歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.5 %	27.7 % (100歳以上)	10.0 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	82.9 %	87.5 % (100歳以上)	76.5 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	784 億円 (▲2 億円)	21 循環器官用薬 (236 億円)	11 中枢神経系用薬 (145 億円)	23 消化器官用薬 (82 億円)
0歳以上 5歳未満	5.2 億円 (▲1.0 億円)	44 アレルギー用薬 (2.5 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.7 億円)	61 抗生物質製剤 (0.3 億円)
5歳以上 15歳未満	11.9 億円 (▲0.1 億円)	44 アレルギー用薬 (6.6 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.4 億円)
15歳以上 65歳未満	268 億円 (+7 億円)	21 循環器官用薬 (67 億円)	11 中枢神経系用薬 (63 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(27 億円)
65歳以上 75歳未満	182 億円 (▲9 億円)	21 循環器官用薬 (69 億円)	11 中枢神経系用薬 (24 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(21 億円)
75歳以上	317 億円 (+1 億円)	21 循環器官用薬 (100 億円)	11 中枢神経系用薬 (57 億円)	23 消化器官用薬 (41 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,318 円	1,699 円(北海道)	1,100 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲7.1%	▲2.9 % (青森県)	▲9.9 % (徳島県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	82.9 %	89.7 % (沖縄県)	79.0 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.5 %	23.0 % (鹿児島県)	16.6 % (京都府)
後発医薬品調剤率	79.4 %	84.9 % (沖縄県)	75.2 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	58.8 %	66.7 % (沖縄県)	55.2 % (東京都)

## 〔利用上の留意点〕

### 分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和4年度8月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。